



鈴木裕の
使い方。

ステイホームでできる環境を整えたい。そこで部屋と電源だ

拙宅の話で恐縮だが、裏の学校が校舎の建替え工事をやっている。2019年の8月に始まって、本来は今年の1月から建設に入るはずだったのだが、いまだに解体工事が続いている。相当にうるさい。学校が建設された昭和30年くらいの前は紡績工場があったらしいが、地下から赤レンガで組んだ土台とかぶつとい杭とかがいまだに出てくるのだ。この昔の建築物というのが実に堅牢な造りで、解体して破砕していく工程での騒音、そして振動が相当に芳しくない。多いときでクレーンが7台入って作業するので地面が揺れ、地震で言うところの震度2くらいになるのはしょつちゅう。レコードをかけていると針も飛ぶ。率直に言ってステイホームでじっくり音楽を聴こうなんていう状況じゃない。

ということでは10万円をいただいたアカツキには、まずはオーディオのある部屋のガラス窓を二重にしてみたい。昔、村井裕哉さんが書いていたがけっこう効果があるらしい。揺れに関してはどうしようもないが、遮音性能が上

がるのは確実に、冷暖房費も下がるはず。ちよつとネットで調べてみると、ひとつの窓で5〜6万円程度で施工できそうだ。スピーカー側の奥の窓と背中側の窓。その両方だと10万円では賄えないだろうがとりあえず学校側の窓を二重にしたい。

DIY感覚のリフォーム 組合せの構想は膨らむ

多くの方に役立つ案としては、電源ケーブルの自作はいかがだろう。ただし10万円という額だと予算に収まりきらない公算が高い。そこで提案したいのが既成の電源ケーブルのリフォームだ。

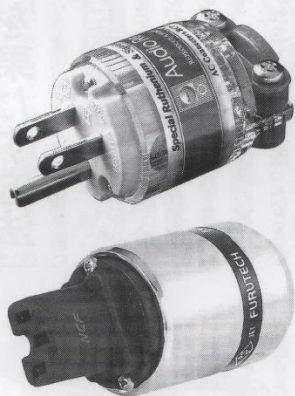
たとえばうちにあるもので言うとMITのZコード2。もう20年以上前の製品だが、当時の定価は2mもので3万5千円くらいだった。この線材自体は残し、モールドの両端のプラグを切り落として電源プラグとIECインレットプラグを新しめのものに交換するといったやり方だ。

自分の好みで言うと、電源プラグは

オーディオリブラスのRCP-1RU (¥27000)、インレットプラグはフルテックのFI-48NCF (R) (¥22000)。これに高周波のノイズ対策のシールドを巻きたい。ネットで「ケーブル被覆、ノイズシールド編組」あたりで検索するといろいろな通販で出てくる。通常径が約φ18〜拡大径で約φ28mmといったものが3mで3千円くらいで売っているだろう。

体の接点にはアンタナテラルゴの接点拡張安定剤TMD-13 (ボリマー3mlの容量のもの。¥7000) を塗って処理。あとはビニールテープがあれば材料費7万2千円くらいで自作できるはず。

なんだったら、元のケーブルとシールド網組みの間にプチルゴムや銅の帯やマグネシウムのテープを巻くといった工夫もある。けっこう面白いというか、高いパフォーマンスの電源ケーブルを獲得できるんじゃないかと思う。



オーディオリブラスの電源プラグRCP-1RU (上) と、フルテックのインレットプラグFI-48NCF (R) (下)。前者は明工社製医療用ACプラグをベースに、スペシャルルテニウムメッキ接点を施して接点ノイズの低減が志向されている。後者は樹脂部分に静電気対策として特殊素材NCFを配し、ハウジングには削り出しのステンレス合金を採用。ロジウムメッキ処理を施し、ハウジング内部からの制振処理もぬかりがない